

令和元年度第1回宮城県試験研究機関評価委員会 議事録

開催日時：令和元年7月17日（水）

午前10時から午前11時30分まで

開催場所：宮城県行政庁舎 第一会議室

1 開会

2 挨拶 経済商工観光部新産業振興課長

3 出席者紹介

○委員、各試験研究機関の場所長の紹介

4 議事 座長：長谷川委員長

○公開・非公開について説明 事務局（新産業振興課）

（1）副委員長の選出

【長谷川委員長】

では、議事に入ります。昨年度まで副委員長をされていましたが、阿部副委員長が辞任されましたので、副委員長を選出いたします。

選出につきましては、委員会条例第3条第1項により、委員の互選によって定めることになっております。どなたかご意見ありましたらお願いします。

それでは、事務局案を提案させていただきます。よろしいでしょうか。事務局お願いします。

【事務局】

事務局といたしましては、副委員長として阿部委員の後任になります、鳴谷委員にお願いしたいと思います。

【長谷川委員長】

副委員長に鳴谷委員というご提案でございますが、皆様、よろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【長谷川委員長】

ありがとうございます。それでは、鳴谷委員に副委員長をお願いしたいと思います。鳴谷委員、よろしく願いいたします。

続きまして、昨年度まで水産部会の部会長をされていましたが、藤井部会長が委員を辞任されました。委員会条例第5条第4項によりまして、委員長が部会委員を指名し、同第5項によりまして、私、委員長が、部会委員の中から部会長を指名することになっておりますので、部会長としまして、後任には、杉崎委員にお願いしたいと思います。杉崎委員、どうぞよろしく願いいたします。

では、ここで、お二人から簡単にご挨拶をいただきたいと思っております。まずは、鳴谷副委員長からよろしく願いいたします。

【嶋谷副委員長】

嶋谷と申します。どうぞよろしく申し上げます。阿部の後任で私は、日本政策金融公庫で農林水産事業というところで仕事をしておりますので、農業・林業・水産業、あと食品関係の企業の方々に政策に沿った方向で低利の融資をすることによってやっております。今回、このような大役ということで私も頑張ろうと思うのですが、本当に技術の重要性というのは、農林漁業の現場でよく肌を感じておりますので、重大な役目ですが、きちんと果たしていきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

【杉崎委員】

水産研究・教育機構東北水産研究所の杉崎と申します。私は、実は30代、40代の頃東北水産研究所におりまして、水産海洋研究、生態系研究を中心にやらせていただいております。その時にも、水産技術総合センターの皆様と一緒に調査研究などもさせていただいております。そういう意味では非常に馴染みの深いところでございます。それだけに宮城県に帰って参りまして、現在、水産行政・水産業界は新しい時代を迎え、今日も国際会議で様々審議をしておりますけれども、難しい時代になってきたのではないかと感じております。そういった中で宮城県のためにできることがあればと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。

【長谷川委員長】

お二人、どうぞよろしくお願いたします。

(2) 宮城県農業・園芸総合研究所の機関評価について

- 説明 農業・園芸総合研究所長
- 質疑応答（概要を記載）

【杉崎委員】

予算額で、受託が毎年一千万単位で増えている。受託の多くは農水省系だと思うが、例えば環境省・文科省では、最近、社会実装をテーマにした課題も増えており、そういった農水省系以外の受託も増えているのか。

【農業・園芸総合研究所長】

農水省の農研センター、生研支援センターが中心だが、一部科研費について、数は少ないがある。

【杉崎委員】

今回発表の研究成果は、ほとんど農水省系のところに出口のある研究課題の成果と考えてよいか。

なぜ聞きたいかという、農水省系は、農業・水産業の発展のためということで出口が非常に明確だが、文科省系・環境省系だと、プロジェクトとしての出口と機関でできる出口がずれてきて困っているということがないかを尋ねるもの。

【農業・園芸総合研究所長】

科研費の場合、学術研究ということである程度自由な課題選定も出来るが、農水省、生研支援センターのプロジェクトについては、目的をはっきりさせ出口を見極めた上で研究に取り組んでおり、いずれもそこを意識して取り組んでいるところ。

【菊地委員】

今年度大幅に組織再編され、野菜部が拡充された形で主要品目であるイチゴ及び震災以降いろいろと注目されている施設野菜に重点が置かれており、優先順位をつけた再編になっていると感じた。ただ、企画調整部が企画調整チームと研究支援チームに分かれ、研究に対して支援ができる形になったのは非常にいいと思うものの、職員数は変わらないので、今後事務量が増えてくるのではないかと感じた。どのように対応するのか。

【農業・園芸総合研究所長】

総枠としては変わっていないので、その中で野菜の部分を手厚く専門性を活かして取り組む形としている。予算の関係で受託研究が増えており、外部との交渉や様々な調整が増えているので、そういった部分の研究員の業務の煩わしさや負担を減らす意味で研究支援チームを敢えて企画調整チームと分け設置した。全体調整の中で負担の軽減を図っていきたいと考えている。

【菊地委員】

どちらかというと、企画調整部でやっていたことが研究支援チームに重点的に移ったと考えてよいか。

【農業・園芸総合研究所長】

全部が移った訳ではない。企画調整チームは、企画や広報などの業務を担当し、研究支援チームは、受託研究への対応など新たな部分に対応できるように分担している。

【菊地委員】

そうすると若干負担は増えており、大変だと思うが人数が確保できるように今後も努めていただきたい。

【農業・園芸総合研究所長】

ありがとうございます。

【菊地委員】

もう一点について。震災対策受託が年々減り、その分受託研究費が増えていると感じる。受託研究費を増やすと大変なところもある。いろいろな設備が導入されるに当たり、今度はなかなか研究費で支払うことが難しい維持管理費がかかることになる。県単も増えているのでいいとは思いますが、できれば安定的な試験研究ができるような予算確保の取り組みも継続してほしい。

【農業・園芸総合研究所長】

お話のとおり、施設を運営していくためのいろいろなランニングコストが必要となる。全体の研究予算が減ると管理費に回せる予算が限られてくるため、必要な部分については、県庁関係課にしっかり予算要求をしていく。また、農業・園芸総合研究所の中で多くの試験用の野菜・果物を作っており、それらを販売し、生産物販売収入という形で予算に組み入れることもできるので、そのために作る訳ではないものの最大限に有効活用しながら少しずつでも予算の確保を図って安定的に運営できるような体制に寄与していきたい。

【長谷川委員長】

他にいかがでしょうか。それでは、農業部会の白鳥委員はどうですか。何かコメントがございましたら、菊地委員も他にコメントという形で機関評価についてよろしく願います。

【白鳥委員】

昨年度の評価ということで振り返りながら見た。全体的には今後の農業の推進に役立つ研究を行っているという評価している。今後とも時代に沿って研究課題を取り上げ頑張ってもらいたい。

【菊地委員】

先程、復興支援に替わる受託研究が増えているという話をしたが、中でもIoTとかAI関係のプロジェクトが多いように思う。それに対してそういう研究が少ないという気がするので、そういう人材の確保などにも今後努められたらいいのではないかと。

【農業・園芸総合研究所長】

ありがとうございます。農業試験研究構想の中で7つの柱があると申し上げたが、その中の7本目に先端技術を活用した農業技術の確立があり、その中で9本、スマート農業関連の取組を行っている。さらに今年度、国のスマート農業の事業2課題を新たに県

内で取り組んでおり、農園研も参画している。その成果についてはまた機会をみてご報告したい。

【陶山委員】

コメントとして、今日具体的な研究成果としてご紹介いただいたいずれも結果のところに統計的な処理が書かれておらず、これが科学的にどうなのかということが判断できない。基本的なことだが、統計的にどうなのかということを必ず示してほしい。林業部会でもよく言っているが、試験研究のデザインとしてこれがなされていないことも見受けられるので、そういうことがないように必ず統計的な処理ができるような研究デザインをし、出た結果の解析をした上で発表もしてくださいとお願いしている。

【農業・園芸総合研究所長】

実際の報告書については、統計処理をしたもので示しているが、分かりやすいようにと思って簡略化したもの。基本的なことであり、その辺は配慮して次回以降資料作成等進めたい。ありがとうございます。

（3）宮城県産業技術総合センター事業推進構想について

○説明 産業技術総合センター副所長

○質疑応答（概要を記載）

【杉崎委員】

食品製造業について、震災前のレベルに達していない理由は、風評被害があるのか、または震災後に基盤整備がまだ進んでいないからか。

【産業技術総合センター副所長】

風評被害は、福島と違った事情もあり、宮城県内においてはあまりないと思っている。一番大きいのは、一度失った販路をなかなか獲得できないというところだと思う。そういった意味で、狙って作る売れる商品作りに注力することにより販路拡大に繋げる取組を行っていききたい。

【福村委員】

重点技術分野に関して、非常に網羅的で全部広く薄くという感じがする。特に材料分析分野は人材が不十分という認識をしているようなので、もっと分野を絞るとか、あるいは、人材不足を人事交流等で補うというような何か具体的な考えはあるのか。

【産業技術総合センター副所長】

分析に関しては、具体的な人事交流がある。今現在は、東北大学にある分析機器を借りだけでなく高度な活用方法も併せて習得させていただいている。そういったことをできるだけ幅広く行うことで当センター職員の分析技術の向上を図っていききたい。

【福村委員】

最近の傾向では、分析機器がものすごく高くなっており、世代が変わって古いものは陳腐化して使えない、新しいものを買っても管理が大変ということで、東北大学の先生に聞いたところほとんど外注になっているようだ。分析機器については、中途半端に高い物を持って維持管理していくよりは、勇気が要ることではあるが、外注するとか、できることとできないことを選択するべきではないか。

【産業技術総合センター副所長】

一昔前までは予算があったのでフルラインナップで分析装置を揃えていた。最近は予算的に厳しいので、東北大学のテクニカルサポートセンターと連携して、東北大学にある地域企業と共用できる施設について、地域企業が使いやすくするにはどうしたらよいかというモデルケースを考え、今テクニカルサポートセンターとやりとりしている。分析には当センター職員も立ち会い、先ず、高度な分析機器を地域企業に使っていただき、その上で本当に複数の企業がヘビーユーザーとしてどんどん使うということであれば当

センターへの導入を考えると、頻度が少なければ東北大学の機器をうまく活用することで対応するというを考えている。

【長谷川委員長】

そのとおり。地域企業と大学は、産技センターが使える組織だと気付いたことで、うまく動き始めている気がする。それと、東北大学も震災以降雰囲気が変わってきていて、大企業偏重型から地域で起業しよう、最先端技術を使いこなす会社が地元にあった方がいいということで、大学の卒業生を就職させながら、地域で産業づくりをしようという機運が出てきている。そういう時に産業技術総合センターとどのようにコラボしていくか、地域の中堅企業にも最先端の技術を受け渡ししながら大学発のベンチャー企業を逆に育ててもらおうと期待をしているところ。

【福村委員】

自動車関連産業のところで、最近、自動運転が随分一般的になってきているが、特区を作ってやっているのか。

【長谷川委員長】

近未来技術実証特区というものを東北で初めて東北大、私が代表で申請した。仙台市の地方創生特区の中に入れて込んでもらった。それを県内各地で広めていくという動きをしたいと思っている。知事ともずっと話しをしていることなので、多分県庁の協力もいただけている。

【陶山委員】

8 ページ目の囲み、第4期には、「魅力度向上と環境対応力向上」とあり、この2本立てでいくのかと思ったが、次ページでは2番目が消えて魅力度向上だけで構成されており、その後を見ても環境対応力向上がトーンダウンしている。もしかしたら考えているうちに変わってしまったのか。

【産業技術総合センター副所長】

うまく表現できていなかった。決して「先導的技術開発と技術支援力強化」を無くした訳ではなく、これをやるのが企業の魅力度を向上させるために必要ということがベースにある。

【陶山委員】

8 ページ目の第4期の方向性を1文で要約している文章の中で、魅力度向上と環境対応力向上の2つを並べて書いており、この文章を見るとこの2つが柱だと理解できるが、その後を見ると環境対応力向上が消えている。全体のビジョンを表す一番重要な文章なので、中身と合わせるべき。このままの中身であれば、魅力度向上だけにした方が分かりやすいと思うし、僕としては、後半も入れて構成した方がいいと思う。いずれにしても一番重要な文章なので、中身と対応させてほしい。

(4) 平成30年度各部会における評価結果への対応について

- 説明 事務局（新産業振興課）
- 質疑応答 特になし

【長谷川委員長】

まだご発言なさっていない委員に全体に対してコメントをお願いします。

【伊藤委員】

産業振興を進めて行く上で、具体的に宮城県の魅力とは何かということがなかなか見えてこないの、明確にさせていただきたいということが一つ。それから、産業振興は大事だと思うものの、これからは、持続可能な社会構築のために必要な施策、具体的な方向性を産業の方から示していくことが大事ではないかと感じている。特に水産業は自然

の力を活かす産業なので、効率性は悪いが、食料資源の生産と環境の保全を両立させていく上ですごく大事な産業。そういう特徴を活かした進め方を具現化していただきたい。

【鳥羽委員】

宮城県ならではのところが前面に出されていないという印象を受けてしまう。先程の産業技術総合センターの環境に対する取組に関しての打ち出し方に、宮城県ならではの示されるとよい。

【鳴谷副委員長】

きちんと PDCA がやられているという印象。産業の方は利用料をとってやっていると思うが、農林水産業は個別企業への支援ではないため、収入はないと思う。可能であれば独自の特許収入等、収入を獲得するような研究をやってもいいのではないかと思った。

【長谷川委員長】

伊藤委員、鳥羽委員からでた、宮城の特徴を活かしてというところについては、各試験研究機関のコラボが重要だと思う。今回、特に場所長が替わり新たな体制になっているので、皆さんで意見交換などをして、宮城県として総合力を発揮できるような企画をしていただければと思う。今既にやっていることで手一杯なところもあるとは思いますが、ぜひもう一段上の県民の期待に応えるような活動を期待したい。

それでは本日はこの辺で終了したいと思います。皆さん、ご協力ありがとうございました。

5 閉会